

定例記者会見（発言内容要旨）

開催日 令和7年8月28日（金）10:00

場 所 庁議室

◆市長あいさつ

■先崎市長

大変お忙しい中、本日の定例記者会見にご出席を賜り、誠にありがとうございます。

また、日頃より本市の各種施策やイベント等を取り上げていただくなど、情報発信にお力添えをいただいておりますことに、重ねて御礼申し上げます。

連日暑さが続いております。酷暑、猛暑、おそらく9月になってもこの暑さが残るだろうということで、市民生活にもいろいろな影響が出ております。それぞれの市町村で取り組んでいるクーリングシェルター等についても、本市も精力的に取り組んでおりますし、また、再開する学校関係についても、いろいろな対策、準備を進めながらやっているという状況でございます。

いずれにしても、去年もそうでしたが、今年もそうすると、来年もどうなるのだという、非常にそういう思いの中でいろいろな施策を考えていかななくてはならない。厳しい状況でありますけれども、頑張って進めていきたいというふうに思っております。

さて、詳細は「市政に関する告知事項」のところで改めてご説明申し上げますが、本市の夏を代表するイベントとして例年8月末の恒例事業でございました「なかひまわりフェスティバル」でございますが、年々厳しさを増す猛暑の影響等を踏まえまして、参加者も、出演者も非常にきつい中でこれまで開催しておりました。去年はたまたま台風の影響で中止にさせていただいたわけではありますが、それ以前の様々な状況を鑑みまして、検討が必要だろうということで、今年度から開催時期や実施方法などを見直し、新たに3部構成からなる「いい那珂フェスティバル」として開催してまいります。あとで詳しくご紹介を申し上げますが、本市の花・ひまわりが一面に咲き誇る「ひまわり畑」はもちろん、活気あふれる多彩なステージイベントや販売ブースの賑わい、そして、夜空を彩る花火大会などの魅力はそのままに、試食販売などの新たな催しも加えまして、「那珂市の魅力」を存分に楽しめる一連のイベントにしたいと考えております。

活力あふれるまちづくりの実現には、地域コミュニティの更なる活性化が不可欠であり、今後も各種イベントを展開しながら、賑わいの創出に努めてまいりますので、記者の皆様におかれましては、引き続き、開催の周知や当日の取材等にご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



○令和7年第3回那珂市議会定例会に提出する議案概要等について○

■先崎市長

会期につきましては、9月2日（火）から9月22日（月）までの21日間を予定しております。

続きまして、令和7年第3回那珂市議会定例会に提出します内容ですが、「報告」が3件、「議案」につきましては「条例の一部改正」が3件、「条例の新規制定」が1件、「令和7年度各種会計補正予算」が2件、「その他」が5件の、計14件でございます。

本日は、このうち、議案第56号についてご説明させていただきます。

【議案第56号 令和7年度那珂市一般会計補正予算（第4号）】

予算総額に、歳入歳出それぞれ3億4,943万1千円を追加し、259億5,883万5千円とするものでございます。

歳出の主な内容として、総務費については、情報系システム管理事業において、令和6年度に選定した内部事務システムの構築に係る委託料を、いい那珂暮らし促進事業において、都内から市内に移住する大学生等に対する移転費に係る補助金を、管財事務費において、日本放送協会放送受信契約の一部未契約分の受信料支払に係る使用料等をそれぞれ増額するものでございます。

民生費については、学童保育事業において、菅谷学童保育所のトイレ洋式化等に係る修繕料を、病児保育補助事業において、国の基準額改定に伴い補助金等をそれぞれ増額するものでございます。

消防費については、防災設備整備事業において、全国瞬時警報システムの受信機更新に係る工事請負費等を増額するものでございます。

教育費については、中学校施設管理事業において、各中学校における校舎雨漏りに係る修繕料等を増額するものでございます。

諸支出金については、国県負担金等返納金において、前年度の精算等による返納金を増額するものでございます。

また、歳入については、額の確定により普通地方交付税を増額し、繰入金を減額するほか、歳出補正予算との関連において、国庫支出金、県支出金、繰越金、諸収入、市債をそれぞれ増額するものでございます。

なお、只今ご説明をしました、議案第56号 令和7年度那珂市一般会計補正予算（第4号）の概要につきまして、定例記者会見資料にお戻りいただきまして、3ページのほうで、補正予算等の概要として、歳出についての主要なものを記載してございます。

また、補正予算に提出をします事業について抜粋したものを記載しておりますので、ご参考にしていただければと思います。

議案の説明につきましては、以上となります。

○市政に関する告知事項○

■先崎市長

今回の告知事項につきましては、「いい那珂フェスティバル2025 第2部、第3部を開催します」ほか7件となります。

【「いい那珂フェスティバル2025」第2部、第3部を開催します】

那珂市では今年度から、市民の皆さまや観光客の皆さまに長年親しまれてきました「なかひまわりフェスティバル」と「産業祭」を一つに統合し、「いい那珂フェスティバル2025」として、本年度初めて開催いたします。

この「いい那珂フェスティバル2025」は、那珂市の自然や産業、そして地域の魅力を、より多くの方々に知っていただくための、新しい地域イベントです。

今回の「いい那珂フェスティバル」は、3部に分けて構成されています。

はじめに、第1部では、那珂市の夏の風物詩でもあります「ひまわり畑」を、7月中旬から下旬にかけて咲かせまして、夜のライトアップも行いました。昼間とはまた違った幻想的な風景をお楽しみいただけたと、写真映えするスポットとしても大変好評でありました。

続きまして、第2部として、上菅谷駅前に広がる宮の池公園を会場に、ステージイベントや模擬上棟式を行います。また、飲食ブースや物販の出店、そして那珂市の特産品である「かぼちゃプリン」の試食販売なども予定しております。さらに、那珂市林業種苗生産組合様より、地域貢献の一環として木造のベンチをご寄贈いただくことになっております。これらも大変ありがたいご支援になります。

そして第3部になりますが、フィナーレを飾る花火大会になります。野村花火工業株式会社による打ち上げ花火が、約2,000発、那珂の夜空を彩ります。約2,000発というのは、発数としては少ないのですが、グラウンドの端から上げるものを、同じグラウンドの観客席から見るという、間近に上げる場所から見られるということで、市民の方々には非常に喜んでいただいております。今年もこの花火大会を継続して行うということになります。

6ページでは、「いい那珂フェスティバル2025」の補足資料を掲載してありますので、ご参考にしていただければ幸いです。

那珂市を代表するイベントとして、皆さまに喜んでいただけるよう、この「いい那珂フェスティバル」は、今後、那珂市の新しい恒例行事として、地域の皆さまとともに育てていきたいと考えております。

市民の皆さまはもちろん、市外からも多くの方にご来場いただけるよう、しっかり準備を進めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【令和7年度「月見の会」を開催します】

那珂市では、中秋の名月に合わせまして、「和」をテーマにした「月見の会」を開催します。

会場は、市内にございます、市役所前の「那珂市曲がり屋」と「一の関ため池親水公園」の2か所で行います。

ここで、「那珂市曲がり屋」についてのご紹介をいたします。「那珂市曲がり屋」は、市内に残る江戸時代末期の最後の古民家を移設・復元した施設であり、特に「那珂市曲がり屋から望む月」は「全国名月サミット」にて、「日本百名月認定登録地第59号」に選ばれている場所になります。まさに月を愛でるのにふさわしい名所にもなっております。

今回のイベントでは、「和」をコンセプトに、曲がり屋の館内を華やかに飾りつけし、ライトアップで夜の景色を彩ります。また、各種の模擬店も出店し、地域の食や文化を感じていただける場を提供させていただきます。さらに、来場された方には無料で団子を配布する予定です。あわせて、野点の実演、琴や篠笛といった日本の伝統楽器の生演奏もお楽しみいただけます。

秋の夜の静けさと美しい月明かりの中で、幻想的なひとときを過ごしていただけるイベントになっておりますので、よろしくお願いいたします。

【「第21回那珂市文化祭」を開催します】

那珂市文化協会では、「第21回那珂市文化祭」を開催します。

文化祭は大きく分けて、展示の部と発表の部の2つのカテゴリーで行います。

展示の部では、水墨画や書道、写真、いけ花、そして着付けなど、多彩なジャンルの作品が一堂に会します。

発表の部では、合唱や太鼓、日本舞踊など、ジャンルを問わず幅広い発表が予定されています。また、茶道部会と水戸農業高校生によるお茶会も催され、来場者の皆さまに日本の伝統文化を身近に感じていただける機会としたいと考えております。

さらに、那珂市中央公民館と総合センターらぽーるではスタンプラリーも実施いたしますので、そちらもお楽しみいただけたと思います。

日頃の努力と創意工夫が感じられる作品の数々や、これまで練習してきた成果を存分に発揮する場となりますので、よろしくお願いいたします。

(次のページに続く)

【「公民館まつり2025」を開催します】

公民館まつり2025実行委員会では、令和7年11月22日(土)と23日(日)の2日間、那珂市中央公民館にて「公民館まつり2025」を開催します。

日頃より那珂市中央公民館をご利用いただいている様々な団体が参加し、日頃の活動の成果を作品展示やステージ発表にて行います。ご来場の皆さまにも直接体験していただける体験講座なども実施し、地域の皆さまに楽しんでもいただける内容となっております。

また、11月23日(日)には、本年7月27日に愛媛県で開催された「書道パフォーマンス甲子園」で優勝した、水戸葵陵高校書道部による書道パフォーマンスの開催を予定しています。詳細につきましては、ホームページ等で改めてご案内いたします。

【「青少年の主張発表大会及び表彰式典」を開催します】

青少年育成那珂市民会議では、青少年が日常生活の中で感じている思いや意見を、より多くの市民の皆さまに伝える機会として、「青少年の主張発表大会及び表彰式典」を開催いたします。

当日は、市内の各中学校から選出された代表生徒10人、市内高校からの代表生徒2人、さらに市消防職員2人の合計14人が登壇し、それぞれの視点から日常生活で感じたこと、考えていることなどを発表します。

若者たちの率直な意見や想いを通じて、地域社会の理解と交流が一層深まることを願い実施しているものでございます。

【「いい那珂そだち新産品開発求評会」を開催します】

那珂市では、令和10年の道の駅開業を見据え、市の新たな目玉商品となり得るお土産品や飲食メニューの開発を進めるため、「うまいもんプロジェクト」を令和5年度からスタートしております。

このプロジェクトは、市内外の飲食店の皆さまのご協力をいただきながら、地域の魅力をいかした新たな産品の発掘と、これまでに提案された産品のブラッシュアップを目指して取り組んでいます。

今年度も、そうした目的を踏まえ、新商品化を目指した求評会を実施いたします。さらに今年度は、新たな試みとして、一般産品部門と「かぼちゃプリン」部門の2つのカテゴリで審査を行い、それぞれの特色をいかした商品開発を進めてまいります。

(次のページに続く)

【「大人が変われば、子どもも変わる運動那珂市推進大会」を開催します】

青少年育成那珂市民会議では、大人一人ひとりがそれぞれの立場から青少年との関わり方を改めて考える契機とするため、「大人が変われば、子どもも変わる」運動那珂市推進大会を開催します。

当日は、こども睡眠カウンセラー認定講師であります「黒木道子氏」をお招きし、子育てに関する講演会を実施いたします。

黒木氏は、ご自身が子育てに悩まれた経験をきっかけに睡眠栄養学を学び、実践してられました。現在は、より多くの子どもたちが良質な睡眠を得て健やかに成長できるよう、睡眠教育の普及に力を入れておられます。

大変貴重な学びの機会となる講演会であると思いますので、よろしくお願いいたします。

【「子育てフェスタ2025」を開催します】

地域子育て支援センター「つぼみ」では、お子さまを中心としたご家族が市内外を問わず気軽に集い、笑顔でつながることができる体験型イベント、「子育てフェスタ2025」を開催いたします。

当日は、子どもたちに大人気のゲームコーナーや工作体験、職員が手作りしたおもちゃの販売に加え、ご利用者の皆さまによるフリーマーケット、学生による生演奏や絵本の読み聞かせなど、多彩なプログラムをご用意しております。

五感で楽しんでいただける内容で、小さなお子さまから大人まで、世代を超えて楽しんでいただけるイベントとなっております。

本イベントは、子育て世代の交流や情報交換の場を提供するとともに、地域全体で子育てを支える環境づくりを目的としております。

時節柄、お忙しいとは存じますが、イベントの開催等に係る告知のご協力、そして、多くのご取材を賜りますようお願い申し上げます。

○質疑応答○

◆補正予算の中で、NHK未契約分受信料の支払いに係る経費の件ですが、ほかの自治体でも判明していますが、この負担額の大きさに対する受け止め、今後の期待、この出費の低減に関して計画されている方針等を教えてください。

■総務部長

この状況を確認していく中で、認識不足があり、公表も含めて対応することとしたところでございます。まずは、現在の法令の中での対応をしていくということでございます。

今回、公用車、携帯電話等につきましては、まずは未契約分をきちんとお支払いし、今後については、公用車は、必要台数を精査し、減らしていきます。携帯電話は、ワンセグ機能のものでしたので、全て機種変更するということを考えております。

◆公表の有無と、改めて公用車等の対象台数を教えてください。

■総務部長

今年の5月16日に公表させていただきました。

公用車のカーナビゲーションにつきましては、公表時よりさらに精査しまして、最終的には19台です。携帯電話が21台、庁舎、施設等に設置している地上波のテレビが5台、衛星受信ができるテレビが1台で、全部で46台になります。

◆市長の冒頭の挨拶の中で、暑い中で学校が再開されることについての発言がありましたが、学校現場では、具体的にどのような対策をされているのか。

■市長

登下校時は、日傘の使用や、ヘルメットではなく黄色い安全帽の着用を認めております。そのほかには、水筒の持参やネッククーラーの使用も認めています。始業時間を遅らせるということはしておりません。現場でできることで対応しております。

(次のページに続く)

◆登下校時等の対策の中で、今年度から又はこの夏から始まった対策はありますか。また、那珂市は、体育館も含めて、クーラーは整備されているのでしょうか。

■企画部長

登下校時や学校内での暑さ対策につきましては、以前から実施している対策で、今年度新たに始めたものではございません。

クーラーの設置状況につきましては、普通教室は全て整備済みですが、特別教室は順次整備を進めているところです。体育館は整備できておりません。扇風機等に対応しています。

◆いい那珂そだち「新産品開発求評会」の件で、かぼちゃプリンについてですが、現状何種類かあるのをさらに増やそうとしているか、道の駅建設と絡めた開発の計画ということなのかを教えてください。

■企画部長

かぼちゃプリンは、現状でもそれぞれのお店で開発しているものがありますが、道の駅で特産品になり得る産品だと考えておりまして、今回、かぼちゃプリンをテーマに求評会を開催するという形です。

■市長

補足しますと、かぼちゃは那珂市の代表的な産物で、歴史的に振り返れば、銘柄産地までは行かず、残念ながら途中で諦めたのですが、もともと「那珂かぼちゃ」というブランドがありました。「都」という品種で、食べて栗のようにホクホクして、非常においしいかぼちゃです。このかぼちゃがやはり那珂市の代表的な産物の一つなので、これを開発して、道の駅の目玉商品にしていこうという動きがあります。

那珂市は、さつまいもも有名なので、干し芋も一生懸命やっていますが、それと同様にかぼちゃも開発しています。

かぼちゃは、6月、7月が旬なのですが、道の駅では通年で商品を提供する必要があるため、例えばパウダーにしたり、ペーストにしたりして、料理に使える、ケーキに、お菓子に使えるという状態を作るため、6月、7月の生産量だけでは足りないため、今、秋取りのかぼちゃ「恋するマロン」という品種について、農家をお願いして、生産量を増やしてもらっており、通年でかぼちゃを原料として供給できるような体制を作っていこうということで取り組んでいます。

そのため、今回の求評会では、かぼちゃプリンに特化して思い切ってやってみようということでテーマにしました。

(次のページに続く)

◆求評会では、現時点で何品ぐらい出てくるのは分かっているか。それともまだ募集中なのか。

■企画部長

今年度の出品物につきましては、現在取りまとめ中です。

令和6年の実績は、出品物が27品ございました。カタラーナ（スペイン風プリン）や、焼き芋入りメンチカツ、バジルのシフォンケーキ、まかないパン（七運カレーパン）等、いろいろな出品物が出てきておりました。

◆去年の27品のうち、かぼちゃプリンは何品あったのか。

■企画部長

昨年度の求評会27品目のうち、かぼちゃに関するものが13品目出ておりました。かぼちゃのプリンは、カタラーナが1品ございました。さつまいも関係は、5品出ておりました。

◆道の駅では、かぼちゃプリンを置く場所は決まっているのか。

■副市長

まだ決まっていません。

道の駅のメインになる南棟では、那珂市のいいものをそろえる形で商品を並べるようになると思います。西棟が、農産物直販や、お土産品等を置く形になるので、どちらに置くのかは、これから検討することになると思います。

◆いい那珂そだち「新産品開発求評会」で、審査される方はどういった方々か。

■市長

昨年度の審査員は、中川学園調理技術専門学校統括部長の眞嶋伸二氏や、笠間にある洋風笠間菓子グリュイエール代表の根本高行氏など、那珂市うまいもん会議～T R E V I～構成員や、学識経験者、一般消費者、出品者等で構成していました。

那珂市の特産品開発は、以前からやっていましたが、審査は割と緩かった。しかし、令和5年度からこの求評会が始まるときに、道の駅で特産品として出すことを目標にしましたので、売れないようなものでは駄目だと。審査を厳しくして、品質を上げていこうということで今はやっています。そのため、審査員の方々は、プロの方にも入っていただいたという経緯があります。

（次のページに続く）

◆いい那珂そだち「新産品開発求評会」で審査員から出た評価は、どのように事業者にフィードバックされるのか。

■企画部長

出品者の方に対しては、当然表彰はしますが、選ばれた中でも、実際に商品化できるのかというところをさらに委託等をしてブラッシュアップを図っているというような状況です。

こちらの求評会のほかに、産品開発の事業がありまして、その中でブラッシュアップする補助金とか、デザインを専門のところに委託していただくような補助金等を用意しております。

◆かぼちゃプリンは、道の駅で販売するものとしては、価格設定等こういった方向性を現時点ではイメージしているのか。

■副市長

現時点では特に決めておりません。那珂市の道の駅は、地元のものにできるだけ特化した形のものをそろえるということを理念として持っていますので、それにふさわしいものであれば、価格もそれに応じてという形になってくると思います。高いとか安いとかで決めているわけではなく、那珂市のものをしっかりと作り上げていくというコンセプトで店の構成を考えています。

◆道の駅に関してですが、まだオープンはまだ先ですが、スタートダッシュを切るという意味で、例えばインフルエンサーの活用だとか、現時点で何かイメージされているものはあるか。

■副市長

オープンを令和10年の秋と考えていますので、それも今の段階では決めておりません。むしろ、オープン3年前に商品開発をやっているというのは、ほかの道の駅に比べるとかなり早い状況だと思います。具体的な道の駅の運営主体とか、運営組織が固まってない中で商品開発を進めていますので、非常に早い段階だと思います。

インフルエンサーの活用も、必要に応じて考えていきたいと思いますが、藤森先生の建築に当たり、例えば、建物の照明を子供たちの手作りで作るとか、現場で焼き杉を作り上げていくといったときに、地元の方や、地元の子供たちに、いろいろな形で関わっていただくということを考えています。それがインフルエンサーではないですが、外に向けたPRになっていくと思いますので、作り上げていく中で、そういうことをしっかり組み込んでいきたいと考えています。

(次のページに続く)

◆瓜連支所について、そもそも、この支所は、地域の方々にどのように活用されてきたのか。

■総務部長

瓜連支所は、那珂町と合併し、那珂市となる前の、瓜連町時代の役場になります。合併して那珂市になった以降は、瓜連支所ということで、現在は、市民の窓口と、教育委員会、上下水道部が入っています。

◆公的な機能以外に、地域の方の集いの場だったり、地域活動の拠点として重要な施設だったりするのか。

■総務部長

地域のコミュニティ施設とすれば、隣接している総合センターらぼーるというのがございます。

地域の方が現在利用しているものでは、郵便局が入っており、郵便局は地域にとってはなくてはならないものだと思っています。

◆瓜連地区のまちづくり委員会の活動は、総合センターらぼーるで主にやられているということか。

■総務部長

瓜連地区まちづくり委員会の事務局は、総合センターらぼーるの事務室内にございます。主にまちづくり委員会の会議等については、総合センターらぼーるの会議室等を利用されている状況だと思います。

◆広域避難計画についてですが、要支援者の人数、現在把握されているものがあれば教えてください。

■企画部長

要支援者数について、登録者数が1,047人で、避難計画上のプラン作成済みが714人になっております。

◆広域避難計画について、既に策定済みの自治体を取材していると、基本的にマイカー移動が原則だが、難しい方は、バスで集団移動という市町村が多く、那珂市としては、移動手段についてのアンケートを取られていたり、取る予定があるとか、計画の策定に向けた最新の状況を教えてください。

(次のページに続く)

■総務部長

当初作った要支援者に対する必要な支援は、年数が経つと状況が変わります。例えば、最初は手をつなげば避難所に行けたのに、2、3年後には車椅子が必要になったとか、当時支援が必要であった方が現在お亡くなりになっているとか、そういった変更もありますので、現在、要支援者のプランの見直しを進めているような状況です。

■市民生活部長

ただ今総務部長がご説明したプランについては、地域の方のご協力、また、民生委員児童委員等にもご協力をいただきながら、支援の必要な方自らの手上げ方式により、支援を希望される方に対して、対応していくというような形で進めています。その方々を市では現在1,047人と把握していて、地域と一緒に対応しているというのが現状でございます。プランができた方が714人です。

現状、広域避難計画は、まず、自家用車での避難を原則としています。自家用車でない方のバスでの避難について、新しくアンケートを取るということは考えておりません。今後、必要に応じてバスの台数とか、人数の把握とかをしていかなくてもならないことは、市でも十分感じていますので、今後、県と調整をしながら、考えていきたいと思っております。

(次のページに続く)

◆市政に関すること以外で、県知事選が9月7日に迫っているが、これまでの大井川県政への評価と、今後の新たな県政への期待を市長にお伺いします。

■市長

現職の知事は、現在3期目を目指しているということで、全体としては、私は評価しております。

特に、政策判断のスピード感というか、一番よかったと思った事案は、工業団地の価格の値下げです。那珂市にも那珂西部工業団地がありますが、30年以上手つかずの土地が5ヘクタールありましたが、昨年やっと売れました。県の土地ですので、私も県議時代に工業団地の地価の値段をもっと下げないと駄目ではないかと提案をしたこともあったのですが、思い切って値段を下げたことにより、群馬県や、栃木県の工業用地と互角に勝負できるようになった。多分それが大きなきっかけで、県内の工業団地が、引き合いが出てくるようになってきたということがあります。産業を呼び込んで、雇用を生んで、人を呼び込むという基本的な流れは、私は正しいと思うので、そういったことをひとつ期待して応援しています。

また、アイデアを出すことも非常に素晴らしく、那珂市の植物園も、50年ぶりにリニューアルをしてもらっています。しかも、全国初の泊まれる植物園、これまでにないような植物園ということですから、温泉も作ってくれますし、これまでなかったレストランも。ですから、植物園に行くときはおにぎり作ってピクニックみたいに行かないと駄目だったものが、今度はレストランがありますから、食べることも、お風呂に入ることも、そして泊まることができるということで、人口減とか、産業の縮小とか、交流人口をどう確保しようかと言っている水戸市から北の地域にとって、植物園は非常に大きなインパクトになるなというふうに思っていて、これも評価をさせていただいております。

同様に、那珂市の道の駅も相乗効果を上げられるように、頑張っていかなければいけないというふうに思っています。細かいことを取り上げれば切りがないと思うのですが、多少の認識のずれとかがあったにしても、総体的には、そのスピード感とか決断力とかについては、頑張ってくれているのではないかなというふうに感じています。

現職の知事は、選択と集中という言葉もよく使いますが、課題はたくさんあると思いますが、これからも頑張ってお取り組みでいただきたいなというふうに私は思っております。

(次のページに続く)

◆県知事選の結果はさておき、特に広域避難計画の部分は、県の力が大きいところもあるかと思うが、次の県政への期待、望むことは何か。

■市長

那珂市も日本原子力発電(株)東海第二発電所から30キロ圏内に入りますので、広域避難計画を作らなくてはいけない。県地域防災計画(原子力災害対策計画編)の改訂版で、避難所の面積が、避難者1人当たり3平方メートル以上になったことで、那珂市は、避難先として筑西市と桜川市にお世話になるのですが、それでは収容しきれないということで、おそらく、県外にもなるかもしれない。飛び地の避難所ができてしまうというようなこともあるかもしれません。

いずれにしても、市の裁量ではできませんので、県にお願いをするしかありませんし、発災時の要支援者の移動手段も、市独自で持っているものについては、限界がありますので、やはり県のほうの支援をいただかないと当然できないということになります。

それと、広域避難計画を作っていく中で、市単独、あるいは避難先も含めて合同での訓練とかを実施してきましたが、さらに広域の訓練も実施する必要があるかもしれない場合には、やはり県に指導していただかないとできないということになってきます。

いずれにしても、県の指導をいただきながら、そういったものをきちんと進めていくということになると思うので、これからも、連携しながらやっていきたい。できるご指導はしっかりいただきたいと思っております。